

## ディズニー映画における原題と邦題比較

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-04-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 夏目, 実桜 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.24517/00069123">https://doi.org/10.24517/00069123</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



## ディズニー映画における原題と邦題比較

経済学類4年 夏目実桜<sup>1</sup>

### <概要>

日本でも大ヒットを記録した『アナと雪の女王』の原題は『Frozen』であった。このように、私たちの知っている映画タイトルの原題と邦題は、もともと違うことがある。本稿では、2000年から2022年までに公開されたディズニー映画のタイトルを題材に、原題と邦題にどのような違いがあるのかを、1) 言語による事態把握(表現視座)の違い、2) 主人公の属性、3) 品詞分解という3つの観点から分析を実施した。その結果、映画のタイトルの原題と邦題のそれぞれの特徴が明らかにされ、両タイトル間にいくつかの対応パターンがあることが確認された。

### <キーワード>

言語文化、場面外視点、場面内視点、品詞

---

<sup>1</sup> natsumemio@stu.kanazawa-u.ac.jp

<目次>

1. はじめに
2. 先行研究の批判的検討と問題設定
3. 方法
4. 結果
5. 考察
6. おわりに

## 1. はじめに

海外で制作された映画が日本で上映されることがある。たとえば、アメリカの映画『アナと雪の女王』が2014年に日本で公開され、大ヒットした。その映画の情報を調べていて、原題が『Frozen』と知って、その違いの大きさに驚いたことがある。海外で上映される際のタイトルと日本で上映される際のタイトルにはどのような違いがあるのだろうか。英語と日本語では、表現の仕方が慣習的にかなり異なることが認知言語学の分野で指摘されている。そのような違いが映画のタイトルのつけ方にも反映しているのだろうか。本研究では、直近20年間に公開されたアメリカ映画を材料に、その原題と邦題を比較することにより、両言語間のタイトルにおける異同を検証する。

## 2. 先行研究の批判的検討と問題設定

### 2.1. 尾野(2018)の主張

尾野(2018)は、海外で制作された映画が日本で公開される際に、タイトルに違いが現れることに着目し、同一の映画であっても、タイトルがそのまま逐語訳されたような映画ポスターは極めて少ないと述べている。例えば、「In the Heat of the Night (逐語訳：夜の熱気の中で)」は邦題では「夜の大捜査線」、「The Thomas Crowns Affair (逐語訳：トマス・クラウンの情事)」は「華麗なる賭け」、「Two Mules for Sister Sara (逐語訳：シスター・サラのための2頭のラバ)」は「真昼の死闘」となっている。尾野(2018)は、その理由として、原題を逐語訳したものをそのまま邦題にした場合、何についての映画か見当がつかなくなったり、映画の内容に関して誤解してしまったりする可能性を指摘している。例えば、「Two Mules for Sister Sara」が逐語訳で「シスター・サラのための2頭のラバ」という邦題になった場合、日本人は尼僧サラと彼女が飼っている2頭のラバについての映画と勘違いしてしまい、西部劇であることが分からないのではないかと述べている。

このように原題と邦題に違いが現れるのは、英語圏では「場面外視点」、日本では「場面内視点」で表現をするという文化の違いがあるからだとして尾野(2018)は主張する。英語圏では、映画の物語をその物語の外部から客観的かつ具体的に捉えようとするため、映画の内容を分析的に捉えた表現がタイトルになりやすい。この分析的な事態把握においては、映画全体が醸し出す感覚、雰囲気等は把握の対象とはなり得ず捨象されてしまう。そのため、映画の「場」の雰囲気は感じ取れなくなる。一方、日本では、体験的に事態を把握しようとするため、「知覚と認識が融合した認識」において「知覚」は映画全体に対する「感覚」となる。そのため、タイトルに映画全体の雰囲気・ムードを表す感覚的表現が現れやすくなる。このような観点から、英語圏での場面外視点では物語に登場する具体的な人物の名前がそのままタイトルになることもあるが、それは日本の場面内視点ではあまり見られない。場面外視点においては、物語の特定の人物に焦点を当てることによりタイトルをつけているからである。しかしながら、主人公などの特定の人物は映画全体の内容とは直接的にはつながらない。例えば、原題「Larry Crowne」と「Sully」はそれぞれ主人公名がタイトルとなっているが、この2つの映画の主人公名が入れ替わった場合、タイトルもそのまま入れ替えることが可能である。これは主人公名のタイトルが映画の内容とは直接的なつながりを持っていないからで

ある。

## 2.2. リサーチクエスチョン

尾野(2018)によるこういった分析は、1950～1990年代の映画に基づいたものである。また、その分析対象は、大人が見るような映画に限定されている。ここで2つの疑問が生じる。尾野(2018)の主張は、2000年代以降の映画についても妥当するのだろうか。また、映画の主な対象が子どもであるような作品についても同じような主張ができるのだろうか。この2点を本研究が取り組むリサーチクエスチョンとして設定する。予測として、本稿を執筆している2023年までの約20年間の時間のずれがあったとしても、また、映画作品の対象が大人と子どもで違いがあったとしても、使用される言語自体に変化はないため、尾野(2018)の主張と同じ傾向が見られるのではないかと考える。

## 3. 方法

子供向け映画で原題が英語のものとして、本研究ではウォルト・ディズニー・ピクチャーズにより制作されたアニメーション映画を対象とする。また、尾野(2018)にならってアメリカ合衆国と日本両国で劇場公開された映画に限定する。尾野の1990年代までの作品と比較するために、2000年代以降に制作された映画を対象に原題と邦題の比較を行う。

## 4. 結果

### 4.1. 作品

2000年から2022年までにウォルト・ディズニー・ピクチャーズ名義で劇場公開された作品は以下のとおりである。ウォルト・ディズニー・ピクチャーズ名義のアニメ映画は以下の三つの制作会社によって製作されているので、制作会社ごとに見ていく。

#### 4.1.1. ウォルト・ディズニー・アニメーション・スタジオ長編作品

ウォルト・ディズニー・アニメーション・スタジオの作品は、ヒロインの心情を楽曲で表現した物語と音楽が融合したミュージカルアニメーションが多くみられる<sup>2</sup>。

- ・Dinosaur/ダイナソー(2000)
- ・The Emperor's New Groove/ラマになった王様(2000)
- ・Atlantis: The Lost Empire/アトランティス 失われた帝国(2001)
- ・Lilo&Stich/リロ・アンド・スティッチ(2002)
- ・Treasure Planet/トレジャー・プラネット(2002)
- ・Brother Bear/ブラザー・ベア(2003)
- ・Chicken Little/チキン・リトル(2005)
- ・Meet the Robinsons/ルイスと未来泥棒(2007)

---

<sup>2</sup> ディズニー100周年記念作品 邦題『ウィッシュ』、日本公開決定！新たなヒロインは17歳の少女、アーシャ The Walt Disney Studios (2022年9月13日)  
[https://www.disney.co.jp/movie/news/20220913\\_01.html](https://www.disney.co.jp/movie/news/20220913_01.html)

- ・ Bolt/ボルト (2008)
- ・ The princess and the Frog/プリンセスと魔法のキス (2009)
- ・ Tangled/塔の上のラプンツェル (2010)
- ・ Winnie the Pooh/くまのプーさん (2011)
- ・ Wreck-It Ralph/シュガー・ラッシュ (2012)
- ・ Frozen/アナと雪の女王 (2013)
- ・ Big Hero 6/ベイマックス (2014)
- ・ Zootopia/ズートピア (2016)
- ・ Moana/モアナと伝説の海 (2016)
- ・ Ralph Breaks the Internet/シュガー・ラッシュ：オンライン (2018)
- ・ Frozen II/アナと雪の女王 2 (2019)
- ・ Raya and the Last Dragon/ラーヤと龍の王国 (2021)
- ・ Encanto/ミラベルと魔法だらけの家 (2021)
- ・ Strange World/ストレンジ・ワールド/もうひとつの世界 (2022)

#### 4.1.2. ウォルト・ディズニー・ピクチャーズとピクサー・アニメーションスタジオの共同制作作品

ピクサーの主要作品は、ウォルト・ディズニー・ピクチャーズと共同制作されている。CGI アニメーションを産業としており、それを用いた映画が特徴である<sup>3</sup>。また、ウォルト・ディズニー・アニメーション・スタジオ作品とは、ミュージカル調作品か否かで区別されることもある（以下では、ニュースや新聞の慣例にならい、「ディズニー&ピクサー作品」と表記）。なお、※を付した作品は、劇場公開予定であったが、新型コロナウイルス (Covid-19) 流行のため劇場公開が断念された。それに伴い、同社傘下の Disney+ での配信公開となった。このように実際には劇場公開されていないが、劇場公開用に制作されたことから、本研究では分析対象として扱う。

- ・ Monsters, Inc./モンスターズ・インク (2001)
- ・ Finding Nemo/ファインディング・ニモ (2003)
- ・ The Incredibles/Mr. インクレディブル (2004)
- ・ Cars/カーズ (2006)
- ・ Ratatouille/レミーのおいしいレストラン (2007)
- ・ WALL-E/ウォーリー (2008)
- ・ Up/カールじいさんの空飛ぶ家 (2009)
- ・ Toy Story 3/トイ・ストーリー3 (2010)
- ・ Cars 2/カーズ 2 (2011)
- ・ Brave/メリダとおそろしの森 (2012)
- ・ Monsters University/モンスターズ・ユニバーシティ (2013)
- ・ Inside Out/インサイド・ヘッド (2015)

---

<sup>3</sup> 続・オタクをピクっとさせる 10 の発言 (2) WIRED (2009 年 8 月 3 日)  
<https://onl.tw/8VR2HZP>

- ・ The Good Dinosaur/アールと少年 (2015)
- ・ Finding Dory/ファインディング・ドリー (2016)
- ・ Cars 3/カーズ/クロスロード (2017)
- ・ Coco/リメンバー・ミー (2017)
- ・ Incredibles/インクレディブル・ファミリー (2018)
- ・ Toy Story 4/トイ・ストーリー4 (2019)
- ・ Onward/2分の1の魔法 (2020)
- ・ Soul/ソウルフル・ワールド (2020)※
- ・ Luca/あの夏のルカ (2021)※
- ・ Turning Red/私ときどきレッサーパンダ (2022)※
- ・ Lightyear/バズ・ライトイヤー (2022)

#### 4.1.3. ディズニートゥーン・スタジオ作品

ディズニートゥーン・スタジオは、ウォルト・ディズニー・アニメーション・スタジオ内の別動班である。2002年まではディズニー・ムービートゥーンという名で活動しており、2003年に新たなキャラクターやフランチャイズを開発するためにスタジオの再編成が行われ、ディズニートゥーン・スタジオに改名された。2018年にスタジオは閉鎖されている<sup>4</sup>。

- ・ The Tigger Movie/ティガー・ムービー プーさんの贈りもの (2000)
- ・ Return to Never Land/ピーター・パン2 ネバーランドの秘密 (2002)
- ・ Bambi II/バンビ2 森のプリンス (2006)
- ・ Planes/プレーンズ (2013)
- ・ Planes: Fire&Rescue/プレーンズ2 ファイヤー&レスキュー (2014)

#### 4.2. 分類

上記の全50作品のタイトルは、原題と邦題の関係から次の4つに分類できる：

- ① 原題と邦題が全く異なる作品  
(原題の直訳でもなく、単にカタカナに直しただけでもない)
- ② 邦題の一部に原題と同一の意味やカタカナ表記にした部分がある作品
- ③ 邦題のメインタイトルは原題をカタカナ表記にしながら、そこにサブタイトルがつく作品
- ④ 原題をカタカナ表記した作品

#### ① 原題と邦題が全く異なる作品：16作品

〈ウォルト・ディズニー・アニメーション・スタジオ長編作品〉

- ・ The Emperor's New Groove/ラマになった王様 (2000)

<sup>4</sup> Disney Shuts Down Disneytoon Studios in Glendale: Exclusive Inside Wire (2018年6月28日)  
<https://www.indiewire.com/2018/06/disneytoon-studios-shuts-down-disney-glendale-1201979736/>

- ・ Meet the Robinsons/ルイスと未来泥棒 (2007)
  - ・ Tangled/塔の上のラプンツェル (2010)
  - ・ Wreck-It Ralph/シュガー・ラッシュ (2012)
  - ・ Frozen/アナと雪の女王 (2013)
  - ・ Big Hero 6/ベイマックス (2014)
  - ・ Ralph Breaks the Internet/シュガー・ラッシュ：オンライン (2018)
  - ・ Frozen II/アナと雪の女王 2 (2019)
  - ・ Encanto/ミラベルと魔法だらけの家 (2021)
- <ディズニー&ピクサー作品>
- ・ Ratatouille/レミーの美味しいレストラン (2007)
  - ・ Up/カールじいさんの空飛ぶ家 (2009)
  - ・ Brave/メリダとおそろしの森 (2012)
  - ・ The Good Dinosaur/アールと少年 (2015)
  - ・ Coco/リメンバー・ミー (2017)
  - ・ Onward/2分の1の魔法 (2020)
  - ・ Turning Red/私ときどきレッサーパンダ (2022)

② 邦題の一部に原題と同一の意味やカタカナ表記にした部分がある作品：11 作品

- <ウォルト・ディズニー・アニメーション・スタジオ長編作品>
- ・ The princess and the Frog/プリンセスと魔法のキス (2009)
  - ・ Winnie the Pooh/くまのプーさん (2011)
  - ・ Moana/モアナと伝説の海 (2016)
  - ・ Raya and the Last Dragon/ラーヤと龍の王国 (2021)
- <ディズニー&ピクサー作品>
- ・ The Incredibles/Mr. インクレディブル (2004)
  - ・ Inside Out/インサイド・ヘッド (2015)
  - ・ Incredibles/インクレディブル・ファミリー (2018)
  - ・ Soul/ソウルフル・ワールド (2020)
  - ・ Luca/あの夏のルカ (2021)
  - ・ Lightyear/バズ・ライトイヤー (2022)
- <ディズニートゥーン・スタジオ作品>
- ・ Return to Never Land/ピーター・パン 2 ネバーランドの秘密 (2002)

③ 邦題のメインタイトルは原題をカタカナ表記にただけだが、そこにサブタイトルがつく作品：4 作品

- <ウォルト・ディズニー・アニメーション・スタジオ長編作品>
- ・ Strange World/ストレンジ・ワールド/もうひとつの世界 (2022)
- <ディズニー&ピクサー作品>

- ・ Cars 3/カーズ/クロスロード(2017)<sup>5</sup>
- <ディズニートゥーン・スタジオ作品>
- ・ The Tigger Movie/ティガー・ムービー プーさんの贈りもの(2000)
- ・ Bambi II/バンビ 2 森のプリンス(2006)

#### ④ 原題をカタカナ表記した作品：19 作品

- <ウォルト・ディズニー・アニメーション・スタジオ長編作品>
- ・ Dinosaur/ダイナソー(2000)
- ・ Atlantis : The Lost Empire/アトランティス 失われた帝国(2001)<sup>6</sup>
- ・ Lilo&Stitch/リロ・アンド・スティッチ(2002)
- ・ Treasure Planet/トレジャー・プラネット(2002)
- ・ Brother Bear/ブラザー・ベア(2003)
- ・ Chicken Little/チキン・リトル(2005)
- ・ Bolt/ボルト(2008)
- ・ Zootopia/ズートピア(2016)
- <ディズニー&ピクサー作品>
- ・ Monsters, Inc/モンスターズ・インク(2001)
- ・ Finding Nemo/ファインディング・ニモ(2003)
- ・ Cars/カーズ(2006)
- ・ WALL-E/ウォーリー(2008)
- ・ Toy Story 3/トイ・ストーリー3(2010)
- ・ Cars 2/カーズ 2(2011)
- ・ Monsters University/モンスターズ・ユニバーシティ(2013)
- ・ Finding Dory/ファインディング・ドリー(2016)
- ・ Toy Story 4/トイ・ストーリー4(2019)
- <ディズニートゥーン・スタジオ作品>
- ・ Planes/プレーンズ(2013)
- ・ Planes: Fire&Rescue/プレーンズ 2 ファイヤー&レスキュー(2014)

## 5. 考察

### 5.1. 視点の比較

尾野(2018)は、英語圏では場面外視点、日本では場面内視点という事態把握の違いに基づいて映画のタイトルもつけられていると述べている。原題と邦題が全く異なるタイトルの映画から検討していこう。

「Meet the Robinsons」「Big Hero 6」「Ralph Breaks the Internet」「Encanto」「Ratatouille」「The Good Dinosaur」「Turning Red」は、作品中のある場面や出来事

<sup>5</sup> 邦題には「3」というシリーズ番号はついていないが、場面外視点や場面内視点には関与しないためメインタイトル同じであると分類する。

<sup>6</sup> 邦題のサブタイトルは原題を直訳したものであるため、今回原題と邦題が全く同一の作品として分類する。

に焦点を当てたタイトルである。また、「Wreck-It Ralph」「Coco」は映画の登場人物がタイトルとなったものである。これらは、映画の物語の中の具体的な場面や具体的な登場人物のいずれかに焦点を当てる場面外視点によってタイトルがつけられていると見なすことができる。しかしながら、「Tangled」「Frozen」「Up」「Brave」「Onward」は映画作品の物語の一部に焦点を当てたタイトルとは判断しがたい。例えば、「Tangled」というタイトルは、主人公ラプンツェルの長い髪が「絡まっている」ところに焦点を当てていると考えれば場面外視点と見なすことができるが、ラプンツェルを取り巻く「もつれた」状況を表したタイトルとも解釈可能である。その場合、「Tangled」は場面の状況や雰囲気をつまえた場面内視点からタイトルを設定したと言えるのではないだろうか。同じように、「Frozen」では、主人公のエルサの雪や氷をつくり出す能力とその能力で妹のアナを傷つけたことから心を閉ざしてしまったエルサの状況やその全体的な雰囲気を考慮したタイトルとも考えられる。「Up」では、風船をつけた家が上に上がっていく場面と少年の成長やカールじいさんの心が軽くなっていくという話の流れも考慮したタイトルとも受け取れる。「Brave」は勇気をテーマとした映画だと想像ができ、実際に主人公が母を救うために行動するという主人公の勇敢さが映画から感じられる。また、「Onward」では、監督自身が「『Onward』は前に進み成長していくとう意味があり、登場人物のイアンとパーリーにぴったりの言葉だと思った」と述べている<sup>7</sup>。これもある一点に焦点を置いたというよりは、映画全体を通して登場人物によく合う言葉がタイトルとして決められたと考えることができる。このように、原題の中には場面外視点とは言えないタイトルの映画もいくつか見られた。逆に、邦題では「シュガー・ラッシュ」、「ベイマックス」は登場人物などの固有名詞がそのままタイトルとなっている。それ以外の作品は登場人物名にそれを修飾する語がついたり映画全体のキーポイントとなる言葉がタイトルに現れたりしている。尾野(2018)が指摘しているように、原題と全く異なる邦題で登場人物名がそのままタイトルとなっている例はなかったが、登場人物名同様に固有名詞によるタイトルは、映画全体のキーポイントとなる部分に焦点を当てた場面外視点によるタイトルである。

次に、原題と邦題の一部に同一の内容の表現があるタイトルでは、「Winnie the Pooh」<sup>8</sup>が「くまのプーさん」、「Moana」が「モアナと伝説の海」、「Luca」が「あの夏のルカ」と、原題では登場人物名のみであったものが邦題になると修飾する語がつき、邦題では登場人物名がそのままタイトルとはならないという結果となっている。「Soul」は映画中にソウルというキャラクターが出てくるため、そのソウルまたは、話の要となる魂そのものに焦点を置いている。邦題「ソウルフル・ワールド」は映画の舞台となる世界観の部分をタイトルとしている。原題と邦題とでは、典型的な場面外視点と場面内視点の対立が見られる。「The Princess and the Frog」や「Raya and the Last Dragon」

---

<sup>7</sup> 『2分の1の魔法』監督、現代タイトルに込めた思いを語る 「一歩踏み出す勇気が必要なんだ」 *Real Sound* (2020年8月14日付) <https://realsound.jp/movie/2020/08/post-601498.html/amp>

<sup>8</sup> くまのプーさんの「プー」って何!? winnie the pooh の意味を解説! (2022年5月31日付) <https://disney-english.com/1045.html>

Winnie と Pooh に別の由来があるが、主人公の英語での名前が Winnie the Pooh である。

は、原題では登場する人物を端的に表現したタイトルであるが、邦題だとそれぞれ「プリンセスと魔法のキス」「ラーヤと龍の王国」というように、映画全体の話の流れを汲んだイトルとなっている。「Lightyear」は光年という意味で宇宙を題材にした内容や主人公のバズ・ライトイヤーにかけたタイトルとなっているが、邦題の「バズ・ライトイヤー」や主人公名がそのままタイトルとなっている。これは尾野(2018)の議論に当てはまらない。

メインタイトルは原題と邦題とで同じで、邦題にはサブタイトルがつくものに関して、「Cars」「The Tigger Movie」「Bambi」は、それぞれ明らかな場面外視点となっている。「Cars」はカーレースする車たちが登場人物となるため、車に焦点を当てたタイトルである。邦題では主人公にライバルが現れたことやクラッシュを起こしたことから「人生の岐路=クロスロード」に立っていることを題名から分かるよう付け加えている。「The Tigger Movie」に関しては、映画の内容を大まかにまとめたもので、邦題では一般的にティガーの友人であるプーさんの方が聞き覚えのある人が多いため、サブタイトルにプーさんの名前と映画の内容につながるものとして「プーさんの贈りもの」がつけられたと考えられる。「Bambi」は登場人物がそのままタイトルとなっており、そのバンビというキャラクターの説明として森のプリンスというサブタイトルがつく。総じてサブタイトルは、場面外視点でつけられた原題に映画の内容を補足的に表す内容で、映画全体の雰囲気が伝わりやすいようつけ加えられている。したがって、サブタイトルは場面内視点の映画タイトルとなっている。

邦題が、原題をカタカナにしかけた作品に関しては、すべてが映画中のキーポイントに焦点を置いたタイトル、すなわち、場面外視点のタイトルがつけられている。「Dinosaur」は恐竜たちの世界を描いた映画であるため、恐竜に焦点を当てられている。同様のタイトルの付け方が「Cars」や「Planes」についても言える。また、「Toy Story」はおもちゃとそのおもちゃの持ち主の人間が登場するが、主にはおもちゃたちの冒険の物語であるため、おもちゃに焦点を当てたタイトルとなっている。「Lilo&Stich」「Bolt」「WALL-E」は主人公名がそのままタイトルとなっている。「Monsters, Inc」「Monsters University」「Zootopia」は映画作品中に出てくる世界や企業、学校名がタイトルとなったものである。原題は映画作品に登場する人物や事物、事柄などのいずれかに焦点を当てたタイトルと言えよう。邦題は原題をカタカナ表記にしかけたため、邦題も場面外視点であるということになる。

2000年代以降のディズニー映画において、原題は場面外視点、邦題は場面内視点という明確な傾向の違いは確認できなかった。原題でも場面内視点と分類できるようなタイトルも見られた。また、邦題でも原題をカタカナ表記にしたタイトルが最も多く、ディズニー映画のタイトルについては場面内視点と場面外視点という事態把握の明白な違いは見られなかった。これは、ディズニーは夢や希望などの世界観を大切にしており、子どもたちにその世界観に入ってもらえるようなタイトルをつけようとするために英語圏、日本それぞれで子どもたちの興味を惹きつけるようなタイトルを設定しているのではないかと考えられる。また、子どもたちにはまだ場面内視点と場面外視点のような言語による事態把握の違いが確立していない可能性があり、視点の違いという特徴が見られないとも考えられる。

## 5.2. 主人公の属性による比較

本節では、主人公の属性による原題と邦題の比較を行う。この比較は、配給を務めるディズニーの担当者のインタビュー<sup>9</sup>に基づいている。インタビューでは、原題とは異なる邦題がつけられている作品の特徴はすべて人間が主人公となっているという共通点があると指摘されている。事実、このインタビューが行われた 2014 年までに「The Incredibles/Mr. インクレディブル(2004)」「Ratatouille/レミーのおいしいレストラン(2007)」「Up/カールじいさんの空飛ぶ家(2009)」「Brave/メリダとおそろしの森(2012)」の 4 作品が公開され、これらの作品はすべて人間が主人公である。逆に「Monsters, Inc./モンスターズ・インク(2001)」「Finding Nemo/ファインディング・ニモ(2003)」などの作品は主人公が非人間の作品となっている。このような法則が生まれる理由を「(人間が主人公の)4 作品に共通するのは、原題とビジュアルを見ても映画の内容がイメージしづらいということ」であるとディズニーの担当者が述べている。担当者は、例えば「Up」は何が上がるのか、「Brave」は何が勇敢なのか抽象的でわかりにくい。よって邦題をつける際はキャラクター名や世界観を意識してよりわかりやすく伝えられるように考えている。」と述べている。他方、「モンスターズ・インク」はタイトルと画像を見てモンスターの会社の話であること、「ファインディング・ニモ」はキャラクターの名前がそのままタイトルとなっているため、ニモが魚であることが容易に想像できる。



「Monsters, Inc」原題映画ポスター



「Finding Nemo」原題映画ポスター

<sup>9</sup> ピクサー作品の邦題はどうやって決められているの？知られざる法則をディズニーが明かす シネマトゥデイ (2020 年 7 月 20 日付) <https://www.cinematoday.jp/news/N0044274>



「モンスターズ・インク」日本版ポスター



「ファインディング・ニモ」日本版ポスター

このインタビューの解説を踏まえ、2014年以降のピクサー作品、その他のディズニー映画にも同じ傾向があるのかを検証していく。

〈表1 ウォルト・ディズニー・アニメーション・スタジオ長編作品の主人公の種類によるタイトルの違い〉

人間が主人公	人間以外が主人公
<b>分類①</b> ・ The Emperor's New Groove/ラマになった王様(2000) ・ Meet the Robinsons/ルイスと未来泥棒(2007) ・ Tangled/塔の上のラプンツェル(2010) ・ Wreck-It Ralph/シュガー・ラッシュ(2012) ・ Frozen/アナと雪の女王(2013) ・ Big Hero 6/ベイマックス(2014) ・ Ralph Breaks the Internet/シュガー・ラッシュ：オンライン(2018) ・ Frozen II/アナと雪の女王2(2019) ・ Encanto/ミラベルと魔法だらけの家(2021)	
<b>分類②</b> ・ The princess and the Frog/プリンセスと魔法のキス(2009) ・ Moana/モアナと伝説の海(2016) ・ Raya and the Last Dragon/ラーヤと龍の王国(2021)	・ Winnie the Pooh/くまのプーさん(2011)
<b>分類③</b> ・ Strange World/ストレンジ・ワールド/もうひとつの世界(2022)	
<b>分類④</b> ・ Atlantis: The Lost Empire/アトランティス 失われた帝国(2001) ・ Treasure Planet/トレジャー・プラネット(2002)	・ Dinosaur/ダイナソー(2000) ・ Lilo & Stich/リロ・アンド・スティッチ(2002) ・ Brother Bear/ブラザー・ベア(2003) ・ Chicken Little/チキン・リトル(2005) ・ Bolt/ボルト(2008) ・ Zootopia/ズートピア(2016)

〈表2 ディズニー&ピクサー作品<sup>10</sup>の主人公の種類によるタイトルの違い〉

<sup>10</sup> 「Ratatouille/レミーのおいしいレストラン」に関して、本作DVD紹介ページ (<https://www.disney.co.jp/studio/animation/0793.html>) のキャスト紹介覧にて人間のリングイニが先に紹介されていることから、ここでは人間が主人公になっていると見なす。「Lilo&Stich/リロ・アンド・スティッチ」については、人間のリロとエイリアンのスティッチの両方が題名に現れているが、日本のテレビ放送HP (<https://www.tv-tokyo.co.jp/contents/lilo->

人間が主人公	人間以外が主人公
分類①	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Ratatouille/レミーのおいしいレストラン(2007)</li> <li>・ Up/カールじいさんの空飛ぶ家(2009)</li> <li>・ Brave/メリダとおそろしの森(2012)</li> <li>・ Coco/リメンパー・ミー(2017)</li> <li>・ Onward/2分の1の魔法(2020)</li> <li>・ Turning Red/私ときどきレッサーバンダ(2022)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ The Good Dinosaur/アールと少年(2015)</li> </ul>
分類②	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ The Incredibles/Mr.インクレディブル(2004)</li> <li>・ Inside Out/インサイド・ヘッド(2015)</li> <li>・ Incredibles/インクレディブル・ファミリー(2018)</li> <li>・ Soul/ソウルフル・ワールド(2020)</li> <li>・ Luca/あの夏のルカ(2021)</li> <li>・ Lightyear/バズ・ライトイヤー(2022)</li> </ul>	
分類③	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Cars 3/カーズ/クロスロード(2017)</li> </ul>
分類④	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Monsters, Inc/モンスターズ・インク(2001)</li> <li>・ Finding Nemo/ファインディング・ニモ(2003)</li> <li>・ Cars/カーズ(2006)</li> <li>・ WALL-E/ウォーリー(2008)</li> <li>・ Toy Story 3/トイ・ストーリー3(2010)</li> <li>・ Cars 2/カーズ2(2011)</li> <li>・ Monsters University/モンスターズ・ユニバーシティ(2013)</li> <li>・ Finding Dory/ファインディング・ドリー(2016)</li> <li>・ Toy Story 4/トイ・ストーリー4(2019)</li> </ul>

〈表 3 ディズニー・スタジオ作品の主人公の種類によるタイトルの違い〉

人間が主人公	人間以外が主人公
分類①	
分類②	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Return to Never Land/ピーター・パン2 ネバーランドの秘密(2002)</li> </ul>	
分類③	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ The Tigger Movie/ティガー・ムービー ブーさんの贈りもの(2000)</li> <li>・ Bambi II/バンビ2 森のプリンス(2006)</li> </ul>
分類④	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Planes/ブレイズ(2013)</li> <li>・ Planes: Fire &amp; Rescue/ブレイズ2 ファイヤー&amp;レスキュー(2014)</li> </ul>

2014年以降のディズニー&ピクサー作品、その他のディズニー作品においても、人間が主人公の場合は、原題と異なる邦題がつけられ、非人間が主人公の場合は原題と同じ邦題がつけられるというディズニーの配給担当者の解説は、検証対象50作品のうち47作品に当てはまり、まさにこの傾向があると言って良い。この説から外れ、例外となる作品は、ウォルト・ディズニー・アニメーション・スタジオ作品の「Atlantis : The Lost Empire/アトランティス 失われた帝国(2001)」「Treasure Planet/トレジャー・プラネット(2002)」、ディズニー&ピクサー作品の「The Good Dinosaur/アールと

stitch/chara/index.html) のキャラクター紹介ページ

ではスティッチが最初に紹介されていることから、ここでは非人間が主人公になっていると考える。「Lightyear/バズ・ライトイヤー(2022)」に関しては、「Toy Story」シリーズではおもちゃとして登場しているが、本作ではバズ・ライトイヤー視点のストーリーであり、おもちゃの世界観ではないことから人間が主人公になっていると見なす。

少年(2015)」の3作品のみである。「Atlantis：The Lost Empire/アトランティス 失われた帝国(2001)」「Treasure Planet/トレジャー・プラネット(2002)」はそれぞれアトランティス、トレジャー・プラネットが作品中に登場し、人間たちが追い求めるというストーリーである。そのため、別のタイトルをつけるよりも映画のキーポイントを分かりやすくしようとしていると考えられる。また、「The Good Dinosaur/アールと少年(2015)」は、人間には言葉が存在せず、恐竜が生き延び、恐竜が言葉を話す世界での物語で、言葉を話す恐竜アールと言葉を話さない人間スポットの冒険の物語である。原題では、言葉を話すアールに焦点を当てたタイトルとなっており、邦題では恐竜アールと人間スポットの冒険や関係性に焦点を当てたタイトルとなっているため、主人公が非人間でも異なるタイトルとなっていると考えられる。

### 5.3. 品詞分解による比較

最後に、原題と邦題の双方を品詞分解して違いを見ていく。原題と邦題の違いにタイトルの言語構造が関係しているかを検証していく。なお、邦題のカタカナ表記に関しては、固有名詞でない場合は英語での文章や表記をカタカナに直していると捉え、英語での品詞分けで考える。

#### ① 原題と邦題が全く異なる作品：16 作品

<ウォルト・ディズニー・アニメーション・スタジオ長編作品>

- The Emperor's New Groove/ラマになった王様(2000)  
Noun Phrase(Det N's Adj N) /名詞 に 過去動詞 名詞
- Meet the Robinsons/ルイスと未来泥棒(2007)  
V Det N / 名詞 と 複合名詞
- Tangled/塔の上のラプンツェル(2010)  
Adj / 名詞 の 名詞 の 固有名詞(名前)
- Wreck-It Ralph/シュガー・ラッシュ(2012)  
N(Name) / 固有名詞(作中のゲーム名)
- Frozen/アナと雪の女王(2013)  
Adj / 固有名詞(名前) と 名詞 の 名詞
- Big Hero 6/ベイマックス(2014)  
N(adj N Number) / 固有名詞(名前)
- Ralph Breaks the Internet/シュガー・ラッシュ：オンライン(2018)  
N(Name) V Det N / 固有名詞(作中のゲーム名)：名詞
- Frozen II/アナと雪の女王2(2019)  
Adj / 固有名詞(名前) と 名詞 の 名詞
- Encanto/ミラベルと魔法だらけの家(2021)  
N / 名詞(名前) と 名詞 形容詞 名詞

<ディズニー&ピクサー作品>

- Ratatouille/レミーの美味しいレストラン(2007)  
N / 固有名詞(名前) の 形容詞 名詞
- Up/カールじいさんの空飛ぶ家(2009)

- Adv / 固有名詞(名前) 名詞 の 名詞 動詞 名詞
- Brave/メリダとおそろしの森(2012)  
Adj / 固有名詞(名前) と 名詞 の名詞
- The Good Dinosaur/アークと少年(2015)  
Det Adj N / 固有名詞(名前) と 名詞
- Coco/リメンバー・ミー (2017)  
N(Name) / 動詞 代名詞
- Onward/2分の1の魔法(2020)  
Adv / 名詞 の 名詞
- Turning Red/私ときどきレッサーパンダ(2022)  
V-ing Adj / 代名詞 副詞 名詞

② 邦題の一部に原題と同一の意味やカタカナ表記にした部分がある作品：11 作品

<ウォルト・ディズニー・アニメーション・スタジオ長編作品>

- The princess and the Frog/プリンセスと魔法のキス(2009)  
Det N Conj Det N / 名詞 と 名詞 の 名詞
- Winnie the Pooh/くまのプーさん(2011)  
Noun Phrase (Name (N Det N)) / 名詞 の 固有名詞(名前)
- Moana/モアナと伝説の海(2016)  
N(Name) / 固有名詞(名前) と 名詞 の 名詞
- Raya and the Last Dragon/ラーヤと龍の王国(2021)  
N(Name) Conj Det Adj N / 固有名詞(名前) と 名詞 の 名詞

<ディズニー&ピクサー作品>

- The Incredibles/Mr. インクレディブル(2004)  
Det N / 固有名詞(作中での主人公の呼び名)
- Inside Out/インサイド・ヘッド(2015)  
Adj / 形容詞 名詞
- Incredibles/インクレディブル・ファミリー(2018)  
N/ 形容詞 名詞
- Soul/ソウルフル・ワールド (2020)  
N / 形容詞 名詞
- Luca/あの夏のルカ(2021)  
N(Name) / 連体詞 名詞 の 固有名詞(名前)
- Lightyear/バズ・ライトイヤー(2022)  
N / 固有名詞(Name)

<ディズニートゥーン・スタジオ作品>

- Return to Never Land/ピーター・パン 2 ネバーランドの秘密(2002)  
V Prep N/ 固有名詞(名前) 固有名詞(作中の世界) の 名詞

③ 邦題のメインタイトルは原題をカタカナ表記にただけだが、そこにサブタイトル

#### がつく作品<sup>11</sup>：4 作品

<ウォルト・ディズニー・アニメーション・スタジオ長編作品>

- ・Strange World/ストレンジ・ワールド/もうひとつの世界(2022)  
Adj N / 名詞 の 名詞

<ディズニー&ピクサー作品>

- ・Cars 3/カーズ/クロスロード(2017)  
N / 名詞

<ディズニートゥーン・スタジオ作品>

- ・The Tigger Movie/ティガー・ムービー プーさんの贈りもの(2000)  
Det N(Name) N / 固有名詞(名前) の 名詞
- ・Bambi II/バンビ2 森のプリンス(2006)  
N(Name) / 名詞 の 名詞

#### ④ 原題をカタカナ表記した作品：19 作品

<ウォルト・ディズニー・アニメーション・スタジオ長編作品>

- ・Dinosaur/ダイナソー(2000)  
N
  - ・Atlantis : The Lost Empire/アトランティス 失われた帝国(2001)  
N : Det Adj N
  - ・Lilo&Stich/リロ・アンド・スティッチ(2002)  
N(Name) & N(Name)
  - ・Treasure Planet/トレジャー・プラネット(2002)  
N N
  - ・Brother Bear/ブラザー・ベア(2003)  
N N
  - ・Chicken Little/チキン・リトル(2005)  
N Adj(Name)
  - ・Bolt/ボルト(2008)  
N(Name)
  - ・Zootopia/ズートピア(2016)  
N(作中の世界の名前)
- <ディズニー&ピクサー作品>
- ・Monsters, Inc/モンスターズ・インク(2001)  
N(作中の世界の名前)
  - ・Finding Nemo/ファインディング・ニモ(2003)  
V-ing N(Name)
  - ・Cars/カーズ(2006)  
N

---

<sup>11</sup> メインタイトルは原題と同じため、邦題に関してはサブタイトルのみ品詞分解を行う。

- ・ WALL-E/ウォーリー (2008)  
N (Name)
- ・ Toy Story 3/トイ・ストーリー3 (2010)  
N N
- ・ Cars 2/カーズ 2 (2011)  
N
- ・ Monsters University/モンスターズ・ユニバーシティ (2013)  
N N (作中に出てくる学校名)
- ・ Finding Dory/ファインディング・ドリー (2016)  
V-ing N (Name)
- ・ Toy Story 4/トイ・ストーリー4 (2019)  
N N
- <ディズニートゥーン・スタジオ作品>
- ・ Planes/プレーンズ (2013)  
N
- ・ Planes: Fire & Rescue/プレーンズ 2 ファイヤー&レスキュー (2014)  
N : N & N

品詞分けしていくと、原題をカタカナ表記にした作品は、名詞または動名詞のみの構成となっている。作中に出てくる固有名詞はそのままタイトルにされても日本人が理解しやすいためであると考えられる。そのほかの名詞や動名詞も映画を端的に表しており、子どもでも理解しやすかったり、親や友人などに伝わりやすかったりするため、邦題もアレンジを加えるのではなく、原題をそのまま利用しているのではないかと考える。同じことが同じメインタイトルにサブタイトルがつく分類の映画タイトルにも言える。サブタイトルはメインタイトルを補足するものであり、サブタイトルもすべて名詞のみから構成されたシンプルなものとなっている。一方、原題と邦題が全く異なる作品に特徴的に表れているのは、原題では形容詞のみで構成されているということである。邦題で形容詞や副詞のみで構成された作品はない。また、原題と邦題が全く違う作品と、原題と邦題が一部のみ同一である作品には、固有名詞(主人公名)のもの以外に邦題で単一の名詞のみの作品はない。これらのことから、原題は短いタイトルや形容詞のみであっても端的に映画の内容を表現しているが、邦題は形容詞で名詞を修飾するなど説明的であると感じられる。また、「The Princess and the Frog/プリンセスと魔法のキス (2009)」「Raya and the Last Dragon/ラーヤと龍の王国 (2021)」のようにともに等位接続詞 *and* を用いて同じ文章構造をとっているが、ここにも原題と邦題でそれぞれ特徴が現れている。原題のこの二つを逐語訳すると「プリンセスとカエル」「ラーヤと最後の龍」となる。どちらも主人公二人や主人公と同じレベルで登場するキャラクター同士を並べている。一方、邦題では、人間(主人公)と行為、主人公と国のように存在が同等ではない項目を並べている。この傾向は、その他の邦題では、「ミラベルと魔法だらけの家」「メリダとおそろしの森」「モアナと伝説の海」でも見られる。これは、邦題では、同等の単語をつなぐ等位接続詞というよりは、映画のキーボ

イントを並べているように思われる。日本人の気を引くためのタイトルには、単に主人公などの単語を並べるよりも映画の内容や雰囲気が伝わりやすい言葉を選んだ方が良いという配慮がうかがえる。これらは尾野(2018)の研究にもあった場面内視点によるタイトルの付け方になっている。

## 6. おわりに

同じ映画でも、公開される国によって異なるタイトルがつけられたり、同じタイトルが用いられたりすることが今回の研究で明らかになった。これには主人公の属性や、英語と日本語という言語としての文化の違いが関係していると推測することができた。

今回はアメリカで制作されたディズニー映画が日本で公開される際のタイトルの変化について調査したが、日本で制作された映画がアメリカなど別の国で公開される際のタイトルの比較によって、さらにこの研究で得られた推測の真偽が明らかになるのではないかと考える。

## 文献

尾野治彦(2018). 「視点」の違いから見る日英語の表現と文化の比較. 開拓社

## <参考資料>

ディズニー100周年記念作品 邦題『ウィッシュ』、日本公開決定！新たなヒロインは17歳の少女、アーシャ The Walt Disney Studios (2022年9月13日)

[https://www.disney.co.jp/movie/news/20220913\\_01.html](https://www.disney.co.jp/movie/news/20220913_01.html)

続・オタクをピクっとさせる10の発言(2) WIRED (2009年8月3日)

<https://onl.tw/8VR2HZZ>

Disney Shuts Down Disneytoon Studios in Glendale: Exclusive Inside Wire (2018年6月28日)

<https://www.indiewire.com/2018/06/disneytoon-studios-shuts-down-disney-glendale-1201979736/>

『2分の1の魔法』監督、現代タイトルに込めた思いを語る 「一歩踏み出す勇気が必要なんだ」 *Real Sound* (2020年8月14日付)

<https://realsound.jp/movie/2020/08/post-601498.html/amp>

くまのプーさんの「プー」って何！？ winnie the pooh の意味を解説！(2022年5月31日付)

<https://disney-english.com/1045.html>

ピクサー作品の邦題はどうやって決められているの？知られざる法則をディズニーが明かす *シネマトゥデイ* (2020年7月20日付)

<https://www.cinematoday.jp/news/N0044274>

Disney Blu-ray & Digital レミーの美味しいレストラン

<https://www.disney.co.jp/studio/animation/0793.html>

テレビ東京 リロアンドスティッチ

<https://www.tv-tokyo.co.jp/contents/lilo-stitch/chara/index.html>

「Monsters, Inc」 原題ポスター

<https://onl.la/ZS3wAF7>

「Finding Nemo」 原題ポスター

<https://onl.la/9KP7EZq>

「モンスターズ・インク」 日本版ポスター

<https://onl.la/AGk8rqJ>

「ファインディング・ニモ」 日本版ポスター

<https://onl.la/FqrmEyc>